物 質 名	2,2,4-トリメ	チルペンタン-1,3-ジオ	ールモノイン	ノブチラート	DB-28
別 名	テキサノーバ	V	構造式		
CAS 番号	25265-77-4		H ₃ C CH ₃ CH ₃		
PRTR 番号	_		O—CH3		
化審法番号	_		O — OH OH OH		
分子式	$C_{12}H_{24}O_3$		分子量	216.32	
沸点	244~247°C¹)		融点	_	
蒸気圧	1×10 ⁻² mmHg(20℃、実測値) ²⁾		換算係数	1 ppm = 8.85 m	ng/m ³ (25°C)
分配係数	(log P _{ow})	3.00(推定値)3)	水溶性	3.22×10^2 mg/I	L(25℃、推定値)4)

急性毒性

動物種	経路		致死量、中毒量等
マウス	経口	LD_{50}	3,200 mg/kg ⁵⁾
ラット	経口	LD_{50}	3,200 mg/kg ⁵⁾
ラット	吸入	LC	$> 3,500 \text{ mg/m}^3 (6 \text{ hr})^{5)}$
ラット	吸入	LCL_0	300 mg/m ^{3 5)}

中、長期毒性

- ・ラットに 0、100、300、1,000 mg/kg/day を交尾前 2 週から雄には 51 日間、雌には哺育 4 日まで強制経口投与した結果、雄では 100 mg/kg/day 以上の群で流涎、肝臓重量の増加、腎臓での硝子滴、1,000 mg/kg/day 群で腎臓重量の増加を認めた。300 mg/kg/day 以上の群では肝小葉中心性の肝細胞の軽微な変性(肥大、好酸性化など)もみられた 6。この結果から、LOAEL を100 mg/kg/day とする。
- ラットに 0、100、1,000 mg/kg/day を 15 日間の試験期間のうち、11 日間強制経口投与した結果、100 mg/kg/day 以上の群の雌雄で流涎、雄の腎臓で硝子滴、1,000 mg/kg/day 群の雌雄で肝臓重量の軽微な増加、雄で一過性の体重増加の抑制を認めた ⁷⁾。この結果から、LOAEL を 100 mg/kg/day(ばく露状況で補正: 73 mg/kg/day)とする。

生殖·発生毒性

・ラットに 0、100、300、1,000 mg/kg/day を交尾前 2 週から雄には 51 日間、雌には哺育 4 日まで強制経口投与した結果、100 mg/kg/day 以上の群の雌雄で交尾、受胎能、生存胎仔数、胎仔の体重等への影響はなかった。雌では、100 mg/kg/day 以上の群で腎臓の硝子滴、肝臓重量の増加、300 mg/kg/day 以上の群で流涎、肝小葉中心性の肝細胞の軽微な変性(肥大、好酸性化などなど)を認めた。また、100 mg/kg/day 以上の群の出生仔で、生存率、体重等への影響はなかった ⁶。この結果から、母ラットの LOAEL を 100 mg/kg/day、父ラット及び仔の NOAELを 1,000 mg/kg/day 以上とする。

ヒトへの影響

・眼、皮膚を刺激する。眼に入ったり、皮膚に付くと、発赤を生じる 8)。

発がん性

IARC の発がん性評価:評価されていない。

新 容 濃 度							
	ACGIH	_					
	日本産業衛生学会	_					

暫定無毒性量等の設定

経口ばく露については、ラットの中・長期毒性試験から得られた LOAEL 100 mg/kg/day (流)、腎臓の硝子滴) を採用し、ばく露状況で補正して 73 mg/kg/day とし、LOAEL であることから 10 で除し、試験期間が短いことから 10 で除した 0.73 mg/kg/day を暫定無毒性量等に設定する。

吸入ばく露について、暫定無毒性量等は設定できなかった。

引用文献

- 1) SRC, Syracuse Research Corporation (2009): SRC PhysProp Database, (http://esc.syrres.com./interkow/physdemo.htm)
- 2) Flick, E.W. (ed.) (1991): Industrial Solvents Handbook 4 th ed. Noyes Data Corporation., Park Ridge, NJ.
- 3) Meylan, W.M. and P.H. Howard (1995): Atom/fragment contribution method for estimating octanol-water partition coefficients. J. Pharm. Sci. 84: 83-92.
- 4) Meylan, W.M., P.H. Howard and R.S. Boethling (1996): Improved method for estimating water solubility from octanol/water partition coefficient. Environ. Toxicol. Chem. 15: 100-106.
- 5) US National Institute for Occupational Safety and Health Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) Database.
- 6) Faber, W.D. and R.S. Hosenfeld (1992): Eastman Kodak Company Reports, TX-92-57. OECD (2001): SIDS initial assessment report. Texanol. CAS No: 25265-77-4.
- 7) O'Donoghue, J.L. (1984): Eastman Kodak Company Reports. TX-84-35. Cited in: OECD (2001): SIDS initial assessment report. Texanol. CAS No: 25265-77-4.
- 8) IPCS (1995): International Chemical Safety Cards. 0629. Texanol.